

業務運営部分

中期計画	意見
第4 短期借入金の限度額	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> ○過年度における短期借入れの実績(年度、金額) 【回答】 これまでに短期借入金の実績はございません。</p>

研究部分

中期計画	意見
第2-1 試験及び研究並びに調査	
1. 開発途上地域の土壌、水、生物資源等の持続的な管理技術の開発	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> <事務局評価案に対する確認が必要な事項> ○評価ランク A とする可能性はないかをご検討頂きたい。 【回答】 ヒアリングにおいて、過年度の研究成果が論文の取りまとめまで到達していないものの、水田からの温室効果ガス排出を抑制し収量が増加する節水栽培(AWD)については現地試験が展開し、インド型イネ品種の収量を増加させる遺伝子 <i>SPIKE</i> についても、これを導入するための共同試験等が開始され、実用化に向けた進捗が認められています。審議会の意見として A 評価が妥当ということであれば、ご意見として頂戴し、検討いたします。</p>
2. 熱帯等の不安定環境下における農作物等の生産性向上・安定生産技術の開発	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> ○ブラジルでのダイズの遺伝子組換え系統に関して、実用的な栽培にまで普及するための今後の障壁をどのように考えているのかを教えてください。 【回答】 実用的な栽培まで普及するためには、(1) 実用品種開発、(2) 安全性評価、(3) 農家による栽培、が必要であるが、共同研究機関である Embrapa は、遺伝子組換え作物の実用化に関する実績や知見が豊富であり、<i>DREB</i> 遺伝子を導入した作物の商業化にも強い関心を示していることから、Embrapa との共同研究を継続することで、上記の課題は達成可能であると考えている。 (1) については、Embrapa における圃場試験及び実用品種との交配等を経て、圃場レベルで安定的に干ばつ耐性を示す実用品種の開発を進める。 (2) については、組換え品種登録のための安全性評価に多額の予算を要することから、基金からのサポートや企業との連携等も視野に入れ、ブラジルにおいて実施する方策を検討する。 (3) については、ブラジルで栽培されているダイズの 90%以上が遺伝子組換え品種であることから、導入上の大きな問題はないと考えているが、農家のニーズに合わせ、干ばつ耐性に除草剤耐性等の特性を兼ね備えた品種を開発する必要がある。現在 JIRCAS と Embrapa で共同開発中の系統には、除草剤耐性遺伝子も組み込まれており、引き続き、農家の実需に対応した品種開発を進める。</p>
3. 開発途上地域の農林水産業者の所得・生計向上と農山漁村活性化のための技術の開発	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> ○技術普及に関する客観的成果(例えば、開発した技術がその地域で何パーセントまで普及して使用されているかなど)を示すデータを提示して頂きたい。 【回答】 ラオスにおいて、村民へのプロジェクト成果紹介を村長宅にて毎年開催しており、約 130 戸の農家の半数以上が参加して、新しい農業技術の説明が行われている。また、村における展示圃場は、ほぼ全ての村民が目にするところで有り、看板の情報と実際の圃場を見て新たな技術への理解が深まっている。 ラオスにおける伝統的発酵食品の微生物管理手法に関する成果は、地域の生産者に伝達され、工場における品質管理に役立てられた。この工場の製品はラオスの「一村一品運動」に認定され、より広範囲での流通が行われる等のメリットが生まれている。 マレーシアにおける林業種苗配布区域の設定手法は、カウンターパートの国立研究機関を通して、政府へ成果が伝達されており、近い将来制定される種苗管理規則(法律等)の根拠として活用される。</p> <p><事務局評価案に対する確認が必要な事項> ○前述の通り、評価ランクを A にするために、もう少し客観的な記述を加えて欲しい。 【回答】 法人側の回答を踏まえつつ、普及や実用化に向けた進捗について、記述を補強いたします。</p>

業務運営部分

中期計画	意見
第4 短期借入金の限度額	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> ○過年度における短期借入れの実績（年度、金額） 【回答】 これまでに短期借入金の実績はございません。</p>

研究部分

中期計画	意見
第2-1 試験及び研究並びに調査	
(1) 研究の重点的推進	
1. 開発途上地域の土壌、水、生物資源等の持続的な管理技術の開発	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> <事務局評価案に対する確認が必要な事項> ○成果を再吟味し、評価ランク A の可能性をご検討頂きたい。 【回答】 ヒアリングにおいて、過年度の研究成果が論文の取りまとめまで到達していないものの、水田からの温室効果ガス排出を抑制し収量が増加する節水栽培（AWD）については現地試験が展開し、インド型イネ品種の収量を増加させる遺伝子 SPIKE についても、これを導入するための共同試験等が開始され、実用化に向けた進捗が認められています。審議会の意見として A 評定が妥当ということであれば、ご意見として頂戴し、検討いたします。</p>
3. 開発途上地域の農林水産業者の所得・生計向上と農山漁村活性化のための技術の開発	<p><法人業務実績及び自己評価に対して確認が必要な事項> ○現地での普及や評価に関する客観的なデータを示して欲しい。 【回答】 ラオスにおけるプロジェクト報告会（平成 27 年 6 月）において、ラオス農林省から、プロジェクト成果がラオス農業発展に大きな貢献があったとして、感謝状が贈られた。 ラオスにおいて、テナガエビの繁殖時期・場所等の生態的特性を解明した結果から、繁殖時期のテナガエビ漁の禁漁期を現地住民及び行政とともに設定し、テナガエビの資源保全が実施された。本件に関して、郡首長より感謝状が授与された。 東北タイにおいて、各地の土壌がチークの植栽に適しているかの評価を示した地図を作成し、この地域のチーク農家の多くに活用されている。不適地での栽培を未然に防ぐことから、農民への経済効果も大きい。 エビの閉鎖循環式養殖システムを企業とともに開発し、モンゴルにおいて実証が進められた。 その他相手国からの表彰、感謝状は、ラオス 2 件（ラオス国立農林研究所、ラオス大学）、タイ 2 件（カセサート大学、キングモンクット工科大学トンブリ校）、マレーシア 1 件（マレーシア水産局）がある。</p> <p><事務局評価案に対する確認が必要な事項> ○現地での技術普及の程度や可能性、また、現地でのその評価を客観的に（現地の農家の視点で）示して欲しい。 【回答】 法人側の回答を踏まえつつ、普及や実用化に向けた進捗について、記述を補強いたします。</p>

全体	<p>複数の法人機関や複数の研究室の共同で行われた研究を発表した投稿論文の場合、業績としてダブルカウントしていないでしょうか？ダブルカウントして良い場合と悪い場合のルールが決められているのでしょうか？</p> <p>【回答】 研究職員業績評価においては各職員が業績評価マニュアルに従ってそれぞれ申告するが、業務実績報告上の公表論文数は 1 件として扱っており、法人内に共著者がいる場合も重複カウントはしていない。 他法人の研究者が J I R C A S のプロジェクト研究に参画して実施した研究の論文については、当センターの研究成果として公表・カウントしている。</p>
----	--